



2026 年 7 月 14 日

各 位

会 社 名 AHCグループ株式会社
代表者名 代表取締役社長 荒木 喜貴
(コード番号：7083 東証グロース)
問合せ先 取締役 経営管理本部長 武藤 輝一
(TEL 03-6240-9550)

2026 年 11 月期第 2 四半期（中間期）連結・個別業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

2026 年 1 月 16 日に公表いたしました 2026 年 11 月期第 2 四半期（中間期）連結・個別の業績予想と本日公表いたしました実績に差異が生じましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2026 年 11 月期第 2 四半期（中間期）業績予想と実績との差異

(1) 2026 年 11 月期第 2 四半期（中間期）連結業績予想と実績との差異(2025 年 12 月 1 日～2026 年 5 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 中間純利益	1 株当たり 中間純利益
前回発表予想(A)	百万円 3,465	百万円 11	百万円 12	百万円 △3	円 銭 △1.62
実績値(B)	3,466	39	51	21	10.40
増減額(B－A)	0	27	39	24	
増減率(%)	0.0%	242.8%	316.1%	－	
(ご参考)前期中間期実績 (2025 年 11 月期中間期)	3,258	22	38	14	6.71

(2) 2026 年 11 月期第 2 四半期（中間期）個別業績予想と実績との差異(2025 年 12 月 1 日～2026 年 5 月 31 日)

	売上高	経常利益	中間純利益	1 株当たり 中間純利益
前回発表予想(A)	百万円 2,000	百万円 △21	百万円 △17	円 銭 △8.12
実績値(B)	2,004	45	26	12.85
増減額(B－A)	3	66	43	
増減率(%)	0.2%	－	－	
(ご参考)前期中間期実績 (2025 年 11 月期中間期)	1,862	26	14	7.06

2. 差異の理由

(1) 2026 年 11 月期第 2 四半期（中間期）連結業績予想と実績との差異

福祉事業では既存事業の稼働が向上したことに加え、前期開設事業所が順調に立ち上がり、売上高は予想を上回りました。介護事業では閉鎖した事業所の影響等により、売上高は予想を下回りました。外食事業では既存店が好調に推移したこと、食材の外部販売が増加したことにより売上高は予想を上回りました。これらの影響により、売上高は予想どおりとなりました。

営業利益につきましては、消耗品費や水道光熱費等の物価高騰を考慮した計画としていましたが、売上原価、販売費及び一般管理費を抑えることができたため、予想数値を上回る結果となりました。

経常利益につきましては、営業利益の増加に加えて、物価高騰に対する助成金等の影響で、予想数値を上回る結果となりました。

親会社株主に帰属する中間期純利益につきましては、前記理由により予想数値を上回る結果となりました。

2026 年 11 月期の通期連結業績予想につきましては、福祉事業及び外食事業の売上高が好調に推移しているものの、今後の新規開設費用や物価の高騰による売上原価・一般販管費の影響を鑑みて業績予想を据え置いております。なお、今後の事業環境や業績推移の進捗によって、業績予想の修正が必要となった場合には、速やかに開示いたします。

(2) 2026 年 11 月期第 2 四半期（中間期）個別業績予想と実績との差異

連結業績予想の差異の理由と同様、福祉事業では既存事業の稼働が向上したことに加え、前期開設事業所が順調に立ち上がり、売上高は予想を上回りました。外食事業では既存店が好調に推移したこと、食材の外部販売が増加したことにより売上高は予想を上回りました。これらの影響により売上高は予想数値を上回る結果となりました。

営業利益につきましては、売上高の増加に加えて、消耗品費や水道光熱費等の物価高騰を考慮した計画としていましたが、売上原価、販売費及び一般管理費を抑えることができたため、予想数値を上回る結果となりました。

経常利益につきましては、営業利益の増加に加えて、物価高騰に対する助成金等の影響で、予想数値を上回る結果となりました。

中間期純利益につきましては、前記理由により予想数値を上回る結果となりました。

2026 年 11 月期の通期個別業績予想につきましても、連結業績予想と同様の理由により、業績予想を据え置いております。

以 上